

◎ 慧文社の新シリーズ (全5巻・分売可) 定期購読受付中!

『日本禁酒・断酒・排酒運動叢書』

鬱、自殺、犯罪、飲酒運転、家庭崩壊、孤立、職場放棄....「酒害」の問題と真っ向から取り組む方々へのための「反時代的」叢書。ついに刊行開始!

第1巻

好評発売中!

日本禁酒史

藤原 暁三・著

(日高 彪・編 解説)

A5判・上製クロス装・函入

定価:本体6000円+税

ISBN978-4-86330-180-1

古代から近世までの我が国の「禁酒史」を概説

2017年2月刊(既刊)

「アルコール入りのお神酒は本来的ではなかった」など、驚きの事実とともに、我が国に古来から脈々と続く「禁酒」の歴史をひもとく。神話の昔から江戸時代まで、日本人がいかに酒害と闘ってきたか、その歴史が数々の文献・史料によって明らかに。宗教家、禁酒家、文化史研究者などに必携の書!禁酒運動が西洋からの押しつけであるという誤謬を糾す名著!読みやすい現代表記の新訂版として待望の復刊!(巻末解説:日高彪)

本書より抜粋

おもに明治以後我が邦における禁酒運動は欧米におけるそれに刺激されて発展したものであることは周知の事実である。しかしてそのことについて我々は大いに感謝しているのである。しかしながら、我が邦における禁酒の思想及び実践が欧米の禁酒運動によって初めて生じたものと思う者があるならば、それは勿論全くの錯誤である。我が日本民族は古来酒より生ずる精神的、肉体的害悪について決して無関心ではなかった。否、日本民族こそは最も鋭く酒の害悪を直感した民族であったのである。(本書序文より)

以下続刊

第2巻 安藤太郎文集

安藤 太郎・著

2017年4月刊行予定

A5判・上製クロス装・函入

予価:本体6000円+税

ISBN978-4-86330-181-8

幕末は旧幕府軍として榎本武揚や土方歳三のもとで戦い、明治期には語学力を生かし岩倉使節団に参加、ハワイ総領事などを務め、日本禁酒同盟の初代会長となった「禁酒の使徒」安藤太郎。彼が遺した貴重な文集に加え、旧版に未収録の原稿も収録する。日本近代の禁酒運動研究に欠かせない重要資料!(現代表記の改訂新版)

第3巻 仏教と酒

—— 不飲酒戒史の変遷について

藤原 暁三・著

2017年7月刊行予定

A5判・上製クロス装・函入

予価:本体6000円+税

ISBN978-4-86330-182-5

「不飲酒戒」を持つはずの仏教がなぜ、どのように飲酒を許容するようになったのか。「不飲酒戒」はどうなったのか。『日本禁酒史』も著した曹洞宗の僧侶でもある著者が、仏教と酒の関わりについて論述する。宗教史・文化史研究にも有用な名著!(現代表記の改訂新版)

第4巻 根本正の生涯

—— 微光八十年

石井 良一・著

2017年9月刊行予定

A5判・上製クロス装・函入

予価:本体6000円+税

ISBN978-4-86330-183-2

未成年飲酒禁止法および未成年喫煙禁止法を提唱し、成立させた根本正。豊富な資料を引用しながら、彼の生涯と業績を紹介する貴重な伝記。禁酒・禁煙だけでなく、義務教育の無償化やヘボン式ローマ字の普及活動、鉄道や治水などの事業についても論じる。(現代表記の改訂新版)

第5巻 禁酒叢話

長尾 半平・著

2017年12月刊行予定

A5判・上製クロス装・函入

予価:本体6000円+税

ISBN978-4-86330-184-9

日本禁酒同盟(日本国民禁酒同盟) 第二代および第四代会長を務めた長尾半平。夏目漱石の友人でもあり、鉄道・土木技術者、教育者、政治家、実業家、俳人としての顔も持つ長尾が、四十年にわたる禁酒・排酒・断酒運動を振り返る。(現代表記の改訂新版)

発行:(株) 慧文社 〒174-0063 東京都板橋区前野町4-49-3 TEL 03-5392-6069 FAX 03-5392-6078

小社の書籍は、全国の書店、ネット書店、TRC、大学生協などからお取り寄せ可能です。

<http://www.keibunsha.jp/>